フォーラム

子育て支援イベントとしての運動プログラムの活用[†]

相澤 景太* 中村 好男**

Exercise Program as the Child Care Support Program[†]

Keita AIZAWA* and Yoshio NAKAMURA**

1. はじめに

著者らは、千葉県我孫子市の子育て支援施設を利用して、共催子育て支援イベントの一つとして「親子でできる骨盤体操」のプログラムを実践し、単に参加者（母親）の身体的効果をもたらすだけではなく、子育て支援施設の利用意欲を促進させ、母親同士のネットワーク構築の一助となったことを報告した¹⁾。ただし、我孫子市でのイベントの成功には、同施設が我孫子駅前の商業施設（イトーヨーカドー我孫子店、以下「我孫子店」）の2階にあって同店との良好なコラボレーションがあったことが背景としてあげられる。すなわち、同施設の利用者が我孫子店にとっての潜在顧客となるという観点から同店の新聞折込チラシを利用した宣伝告知を行うことができ、さらに、森永乳業やカゴメといった関連企業の販売プロモーションと連携することで同イベントへの協賛を得られたという事実も存在した。

ところで、イトーヨーカドーのような商業施設と子育て支援センターとが同居するというケースは必ずしも一般的ではないので、先に開発した運動プログラムの普及および商品化を図るためには別の仕組みを検討する必要がある。

前述の我孫子市のケースでは「子育て支援センター」で実施したのであるが、このイベントに集客効果や協賛効果が認められるのであれば、イトーヨーカドーのような商業施設自体のイベントスペースを利用して実施することも可能かもしれない。そこで、我孫子店の店長として同イベントに深く関わったO氏が、2011年に大阪府堺市の津久野店（以下、「津久野店」）へ異動となったことを契機として、同様のイベントを津久野店で実施する可能性を探った。その際、我孫子でのイベントをさらに発展させるために、1) 我孫子店店長と協賛各社担当者の個人的レベルの取り決めで開催されたために運営方法が共有されなかったこと、2) 社会的問題の解決を目的としている共催子育て支援イベントの評価が、集客数など短期的な評価といったビジネス視点での評価に偏っており、多方面の企業からの協力が得られにくかったことの2点を同イベントの問題点と認識し、その解決にも取り組んだ。具体的には、このプロジェクトのテーマを「ママへのごほうび」と名付けて、「体操を通して母親の社会的孤立の解消、密室育児の打破を目指す」を活動のミッションに掲げるとともに、様々な協力組織との連携において、個人レベルの了解から組織レベルでの承認へと移

[†] 原稿受付 2012年7月19日 原稿受諾 2012年8月21日

* 早稲田大学スポーツ科学研究センター 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

** 早稲田大学スポーツ科学学術院 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

* Waseda Institute for Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15, Mikajima, Tokorozawa, Saitama, Japan (359-1192)

** Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15, Mikajima, Tokorozawa, Saitama, Japan (359-1192)

行させ、多様な利害関係者との情報の共有やコミュニケーションを図ることを試みた。

以下、その取り組みの経緯とプログラムの内容について紹介する。

2. 子育て支援イベントとしての「ママへのごほうびフェスタ」

まず、津久野店は、当然のことながら子育て支援施設との連携はない。そこで、同店内にあるアカチャンホンポの協力を得てその売り場スペースにメインステージ130㎡を設けるとともに、隣接するイトーヨーカドーの売り場スペース200㎡をイベントブースとして、計330㎡の特設会場を設置することとした。

次に、運営組織であるが、主催・津久野店、協力・アカチャンホンポという構成を前提とした上で、著者らが所属する早稲田大学スポーツ科学研究センターの後援を得て、3者の組織的役割の下で、2011年12月11日、2012年2月19日、2012年5月20日の計3回にわたって「ママへのごほうびフェスタ」を開催すべく活動を開始した。

上記の役割が決定したところで、津久野店から関連企業や、堺市内の行政機関に協力、出展要請を働きかけた。その結果、日清食品、スタジオマリオ、アサヒ飲料の協力が得られるとともに、出展企業として、森永乳業・キリンビバレッジ・カンロ・カゴメが食育に関するプログラムを実施した。また、トライアルとして農林水産省近畿農政局大阪地域センターが出展という形で参加、「マジ（本気）でごはん（食）について考えてみませんか？」をテーマにパネル展示、パンフレット配布、パソコンでの食生活診断、「ピタっとはかろう！お茶わん1ばい分のお米クイズ」を実施し、日本型食生活の推進やマジごはん計画など多くの親子連れに食育に関する広報活動²⁾を行った。著者らが我孫子市において開発・実践した運動プログラムは、「親子でできる骨盤体操」として、一回30分の枠で計3回実施した。

第1回「ママへのごほうびフェスタ」の全体

の参加者数は、約750名（津久野店調べ）、そのうちの親子70組が「親子でできる骨盤体操」に参加した。

第1回開催後、子育て支援イベント「ママへのごほうびフェスタ」に関心や興味を示す企業も増加し、第2回には、スタジオマリオ、花王、カネボウ化粧品が、協力企業として加わった。また、農林水産省近畿農政局大阪地域センターの出展協力が正式に承認され、豆運び&パズル、豆遊びゲーム、野菜パズルなどが実施され、日本型食生活の推進やマジごはん計画など多くの親子連れに食育に関する広報活動が行われた³⁾。第2回「ママへのごほうびフェスタ」の全体の参加者数は、約1,000名（津久野店調べ）、そのうちの親子70組が「親子でできる骨盤体操」に参加した。その際、堺市子ども青少年局の視察があり、第3回「ママへのごほうびフェスタ」に向け連携についての話し合いがもたれた。

2012年5月20日に開催した第3回「ママへのごほうびフェスタ」では、堺市子ども青少年局からの後援ならびに出展が得られることとなった。同局の出展ブースでは、地域に密着した子育て支援の広報活動として子育て支援センターの事業や子育てサークル・サロン等を紹介するパネル展示や子育て支援情報が提供されるとともに、子育てアドバイザーによる手作りおもちゃづくり（ストローロケット・びっくりおぼけ）や保育士による手遊びやエプロンシアターのほか、子どもの写真などを入れたオリジナルキーホルダーづくりが実施された。

第3回「ママへのごほうびフェスタ」の全体の参加者数は、約1,200名（津久野店調べ）、そのうちの親子70組が「親子でできる骨盤体操」に参加した。

3. 考 察

本稿では、子育て支援プログラムとして我孫子市で施行された運動プログラムの継続・拡大を目的に産学官連携の下での子育て支援イベントとして「ママへのごほうびフェスタ」を開催した経緯とその実践プロセスを紹介した。

本イベントは、子育て支援を目的とした運動プログラムの継続・拡大を目指したものであったが、「子育て支援」という旗印に共感してくれる産官の組織が少なくなく、「ママへのごほうびフェスタ」に興味や関心を持つ企業からの問い合わせや、他のイベントとの連携の話などがもたらされた。また、第3回のイベント開催時には、イトーヨーカドーの持ち株会社であるセブン&アイ・ホールディングスからの視察もあり、関東近郊や子育て支援に力を入れている他県での開催計画も進んでいる。さらに、「ママへのごほうびフェスタ」に出展したことをきっかけに、キリンビバレッジと堺市がつながり、第3回「ママへのごほうびフェスタ」イベント時には、キリンビバレッジから、堺市へ絵本の寄贈式が行われ、その寄贈式の様子が業界新聞の記事になるなどの効果も生み出されている。

以上のことから、共催子育て支援イベントの継続、実践実施の拡大を目的に産学官が連携する形をとったことで、徐々にではあるが、個人レベルの活動から組織レベルの活動へ移行しつつある。本イベントを通じて、運営方法などのノウハウや人材の交流、子育てイベントの意義についての認識共有が活生化したことで、本イベントが社会貢献活動であるとの認識が広まり、協力企業も増えていることが期待される。

子育て世代を取り巻く問題として子育ての孤立化や密室育児が挙げられる現代では、「子育て支援」をキーワードに産学官が連携して乳幼児を持つ母親や子育て世代を支援していく仕組み構築や子育て世代を応援していく社会関係をつくるきっかけとなる活動の継続、実践実施の拡大が必要であると考えられる。現在、各地でさまざまな子育て支援活動が行われているが、運動プログラムを通して、子育て支援活動を個人レベルの活動から組織レベルの活動へ移行することは、子育てに関する社会的課題解決のきっかけとして有効であろうと考えられた。ま

た、「運動プログラムの商品化」あるいは「スポーツの産業化」という観点からも、「子育て支援」という社会的要請に答えていくことが有用なのではないかとの実感を、本事例を通じて得ることができた。

謝 辞

本論文を執筆、子育て支援イベントとしての運動プログラムの継続、実践実施の拡大に向けて、貴重な助言、アイデアをいただいた株式会社アミューズ相談役ファウンダー・大里久仁子氏、株式会社NHKプロモーション牧野健太郎氏に感謝の意を表します。

また、調査にご協力いただいたイトーヨーカドー津久野店・長田哲氏、渋谷市豊氏、久保誠康氏、甲地宏樹氏、三田芳行氏、鶴見店・新井野瀬里氏、そして津久野店の皆様に感謝の意を表します。

運動プログラム実施に至っては、株式会社カイラックス・榎本裕司氏、梅澤友晃氏、主藤晃一氏、田上尚平氏、西尾貴仁氏、大久保有咲氏をはじめ、カイラックスの皆様にはひとかたならぬお世話になりました。心より感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 相澤景太, 中村好男; 子育て支援プログラムとしての運動プログラムの開発と実践, ~我孫子市子育て支援施設「にこにこ広場」における実践事例~, スポーツ産業学研究, Vol.21, No.2, pp.275-280. 2011.
- 2) 近畿農政局, ママへのごほうびフェスタ2011 移動消費者の部屋 (2012. 7. 11web参照), <http://www.maff.go.jp/kinki/press/tiiki/osaka/111215.html>.
- 3) 近畿農政局, ママへのごほうびフェスタ2012 移動消費者の部屋 (2012. 7. 11web参照), <http://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/osaka/120222-2.html>.